



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 58 号 2015.8.5

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から 待望のアンガス

平成 27 年 5 月 29 日未明に、十和田農場でアバディーン・アンガス種が誕生しました。これは、実に 6 年ぶりに十和田農場にアバディーン・アンガス種が復活したということになります。十和田農場には、6 年前までは 6 品種いたのですがアバディーン・アンガス種だけが後継牛が生まれなかったもので、肉専用種 5 品種が飼養されていました。

受精卵の作成も試みましたが、最後のアバディーン・アンガス種は高齢で採卵することが出来ませんでした。また、OPU 法で体外受精卵の作出を試みましたが状態の良い卵を採ることができず受精卵を作ることができませんでした。

そのため十和田農場のアバディーン・アンガス種は、姿を消してしまいました。

北海道立総合研究機構農業研究本部畜産試験場が行った、アバディーン・アンガス種受精卵の「長期凍結保存したアンガス種受精卵の受胎性調査」の協力を受け入れることにより、長期凍結保存されたアバディーン・アンガス種の凍結受精卵 10 個の提供を受けることにしました。

十和田農場での受精卵移植は決して条件が良いとはいえませんでした。移植に使える牛は実習で使用しない牛で、頭数は 5 頭で他の選択肢はありませんでした。その 5 頭に 7 回、7 個の受精卵を移植した結果 2 頭の受胎が確認できました。後に 1 頭は流産してしまいました。

そして今年の 5 月に待望のアバディーン・アンガス種が誕生しました。生まれたのは雄で生時体重は 36kg と立派な子牛で、出産した



母牛はシャロレーで白い牛から黒い牛が生まれたので学生達も珍しいと興味津々です。しかし、十和田農場では雌が生まれることを少しだけ期待していました。あと残りの受精卵については、雌が生まれることを期待して、秋以降に移植を行います。

八雲牧場から

大学はおいしいフェアなど百貨店の催事に参加

4月22～28日の7日間は、小田急百貨店町田店に、5月13～18日の6日間は、伊勢丹相模原店のどちらも「大北海道展」の催事に草熟北里八雲牛の加工品を出展しました。また、5月27～6月2日には、毎年恒例の高島屋新宿店「第8回大学はおいしいフェア」に参加しました。

八雲牧場からは、ビーフシチューやコンビーフ等の加工品や冷凍牛肉として塩麴ステーキを販売しました。今回も、本部広報課や十和田キャンパスの皆様にご協力いただき、無事会期を終えることができました。



今年度の生薬栽培始動

八雲牧場では、昨年より良質な漢方薬を国内生産するための研究として、牧場内の圃場を利用して生薬栽培を行っています。

5月13日の北里大学薬学部薬用植物園より福田達夫先生が来場し、ウイキョウの播種やメハジキ、カミツレの株分けと移植を指導して頂きました。他にも圃場内では、ハッカ、シソなど10種類の生薬を栽培しています。今年は、例年にない春先の暖かさで雪どけが早く、圃場作業は早めのスタートとなりましたので、秋には品質の良い生薬が収穫できることを期待しています。





5月14日移植したカミツレは収穫時期を迎え、6月30日に収穫、現在育苗ハウス内で乾燥中です。

放牧開始

今年は、小雪が影響したのか雪解けが早く進み、放牧も例年より10日以上早く実施できました。

越冬中は舎飼で少々運動不足だった牛たちは走って放牧地へ出ていきました。

今秋の退牧時にはきっと大きくなって帰ってくることでしょう。



繁殖に関する意見交換会

6月2日～4日の日程で、獣医学科獣医臨床繁殖学研究室の坂口先生が来場され、八雲牧場職員と意見交換をしました。

先生のご専門に関する講義や発情発見システムの紹介、繁殖牛に関する基礎データの収集方法など、八雲牧場でできる繁殖分野に関する研究について、様々な角度からアドバイスを頂きました。今後も教育研究とも連携していけたら良いと思います。

一番草収穫完了

6月14日より一番草のバンカーサイロ用グラスサイレージの収穫が行われ、例年並みの収穫量を確保することができました。残りの草地からはロールラップサイレージとして収穫し、6月中には一番草をすべて収穫することができました。

(編集担当：畔柳 正)